

県立歴史と民俗の博物館

歴史特集展示「国宝太刀・短刀の公開」の開催について

(同時発表：さいたま市政記者クラブ)

県立歴史と民俗の博物館では、令和4年10月4日(火曜日)から12月4日(日曜日)まで、常設展示室内で歴史特集展示「国宝太刀・短刀の公開」を開催します。

当館では、武蔵武士の大河原(おおかわら)氏が備前長船派(びぜんおさふねは)の刀工景光(かげみつ)と景政(かげまさ)に作らせた国宝の太刀、そして景光が制作し、後世、上杉謙信(うえすぎけんしん)が所持したことから、「謙信景光(けんしんかげみつ)」と呼ばれる国宝の短刀を所蔵しています。

本展では、その国宝太刀「銘 景光・景政」と国宝短刀「銘 備州長船住景光」(謙信景光)を公開します。

併せて、今回の特別公開では大人気のPCブラウザ&スマホアプリゲーム「刀剣乱舞(とうけんらんぶ)ONLINE」とのコラボレーション企画も実施します。

1 展示の概要

(1) 会 期 令和4年10月4日(火曜日)～12月4日(日曜日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。

(2) 開館時間 9時00分～16時30分(観覧受付は16時00分まで)

(3) 休 館 日 毎週月曜日(ただし、10月10日、11月14日は開館します)

(4) 会 場 県立歴史と民俗の博物館 常設展示室第3室 ほか

(5) 観 覧 料 一般300円、高校生・学生150円

(20名以上の団体、一般200円、高校生・学生100円)

※企画展「銘仙」(10月15日(土曜日)より開催)を観覧する場合は、一般400円、高校生・学生200円

(20名以上の団体、一般250円、高校生・学生150円)

※中学生以下と障がい者手帳等をお持ちの方(付添1名を含む)は無料

※「ぐるっとパス2022」で観覧できます

(6) アクセス 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅から徒歩5分

※駐車台数に限りがあります(18台)。公共交通機関を御利用ください。

(7) 展示内容

国宝太刀・短刀は、同じ刀工によって制作された兄弟刀です。常設展示室第3室では、国宝の兄弟刀を揃って展示します。

【展示資料】

○国宝「太刀 銘 景光・景政(めい かげみつ・かげまさ)」(当館蔵)

○国宝「短刀 銘 備州長船住景光(めい びしゅうおさふねじゅうかげみつ)」(当館蔵)

○国宝(附)「小サ刀拵(ちいさがたなこしらえ)」(当館蔵)

2 「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーション

本展で展示を行う国宝「短刀 銘 備州長船住景光」は、PCブラウザ&スマホアプリゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」に登場する、刀剣男士「謙信景光」のモチーフになっています。今回、この国宝短刀が展示されることを記念して、「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションを実施します。

【コラボレーションの内容】

(1) 刀剣男士「謙信景光」等身大パネル・描き下ろしイラストの展示
(期間中展示替あり)

通常 Ver. 10月4日(火曜日)～10月30日(日曜日)

戦闘 Ver. 11月1日(火曜日)～12月4日(日曜日)

※描き下ろしイラストは、平成29年開催の特別展「上杉家の名刀と三十五腰」のために描き下ろされたものの再展示です。

(2) 入場者特典の配布

会期中に、先着でオリジナルミニクリアファイル(A5サイズ)を入場者特典として配布します。当館総合受付でチケットを購入する際に、口頭又は引換画像提示で申し出た方に配布します。お一人様につき1枚のお渡しとなります。

※入場者特典の事前予約は受け付けておりません。

※会期中であってもなくなり次第、配布は終了となります。

(3) 刀剣乱舞万屋本舗ミニ出張所の展開

会期中に、当館ミュージアムショップで刀剣乱舞万屋本舗ミニ出張所を展開し、「刀剣乱舞 ONLINE」関連グッズの販売を行います。

※ 展示及び関連事業の詳細はホームページ [歴史と民俗の博物館](https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/) 検索
(<https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>) を御覧ください。

【関連写真】短刀 銘 備州長船住景光（謙信景光）

(表)



(裏)



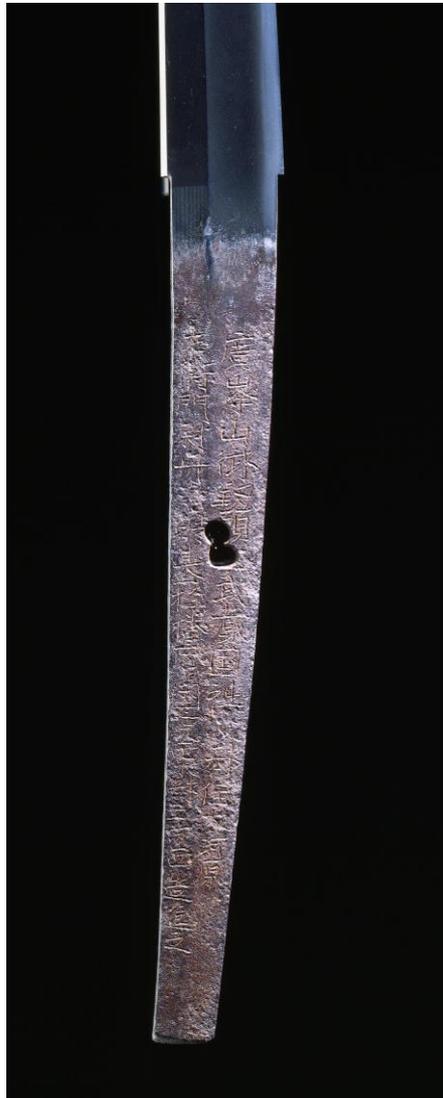
こしらえ
(拵)



太刀 銘 景光・景政 刀身表



国宝 太刀 景光・景政（全刀身表）

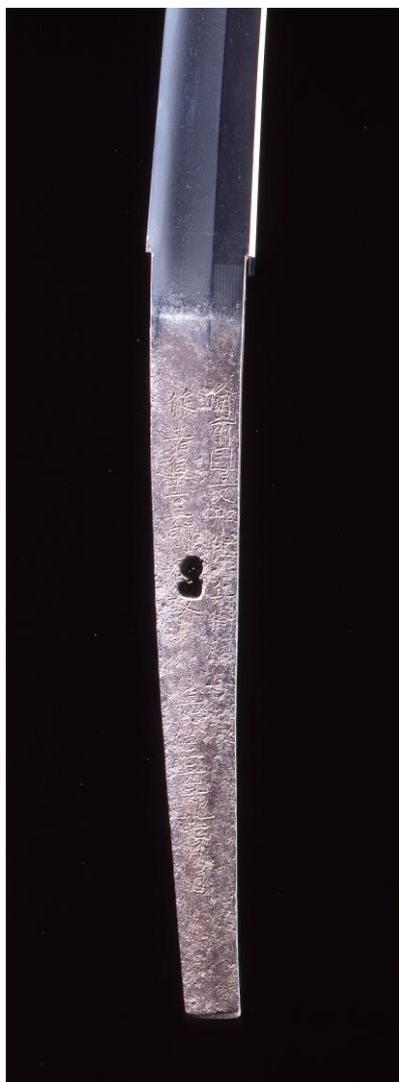


国宝 太刀 景光・景政（茎表）
（銘文）「廣峯山御劔願主武藏国秩父郡住大河原
左衛門尉丹治時基於播磨国宍粟郡三方西造進之」

太刀 銘 景光・景政 刀身裏



国宝 太刀 景光・景政（全刀身裏）



国宝 太刀 景光・景政（茎裏）
（銘文）「備前国長船住左兵衛尉景光
作者進士三郎景政嘉曆二二年己巳七月日」

いずれも写真撮影：要史康